



声のラン

声

先日、子どもが病気になる、入院することになりました。

市内の病院の小児科は満床のため、札幌市の病院に入院することになり、大変不便な思いをしました。

小児科の病床を増やすなど、市の医療体制をもっと充実してください。

答

市内の医療機関は、札幌保健医療圏（石狩管内）に属しており、病床数（ベッド数）は、北海道が定めています。

圏域内の病床数は、現在基準病床数より6千床以上超過しているため、新たな病院や有床診療所の開設・増床は認められていません。

圏域内のうち、札幌市と江別市を除く6つの市町村で、小児病棟は、3つの医療機関（合計で24床）にあります。このうち19床を確保している千歳市民病院は、市内と周辺市町村からの小児科の入院医療を受け入れる、基幹病院としての役割を担っています。

ただし、大部分の小児科医や小児病棟は、札幌市に集中しています。患者数が多い都市部は、経営面での不安が少なく、また、専門医を取得するための研修施設が充実しています。そのため、小児科医や小児病棟に限らず、医師や入院可能な医療機関は、札幌市などの大都市に集中しているのが現状です。

さらに、医師の中でも激務とされる小児科医を希望する

小児科の医療体制を充実してください！！

医師は、全体の1割を切っています。そのため、大都市を除く道内の市町村では小児科医の確保が難しくなり、小児科を診療科から除いたり、小児病棟をなくして外来のみにする医療機関が増えていきます。地域の小児医療は、慢性的な問題を抱えています。

小児科の医療体制を確保するため、千歳市では、市民病院独自の取組として、平日の18時から21時まで、小児科の救急当番医の診療を行っています。また「ちとせ健康・医療相談ダイヤル24（15ページに紹介）」により、24時間体制で医療相談を受け付けています。今後とも、現状の限りある医療資源を有効に活用し、市民の皆さんが安心して生活できる医療体制を整備します。

健康推進課救急医療・管理係
☎(24)0361



市民病院は基幹病院としての役割を担っています

《40歳代女性》

【ワンポイントメモ】

冬期は気温が低く空気が乾燥しているため、インフルエンザが流行するおそれがあります。インフルエンザウイルスを予防するためには、うがいや手洗い、マスクを着用するほか、予防接種が効果的です。流行する前に予防接種を受けて、健康を守りましょう。

案内

「声のラン」では、おもに「市長への手紙・ポスト」や「広報広聴モニター」の声と、その答えをご紹介します。そのほか皆さんからの一般的な質問などもご紹介しますので、普段から疑問に思っていることなどを、お手紙などでお寄せください。ただし、ほかの市民にも参考になる内容を採用させていただくため、個人的なことなどを掲載することはできません。また、質問の内容を確認する必要上、お手紙には必ず連絡先と名前をご記入ください。【〒066-8636 / 千歳市東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課 宛】